

公表 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ROSELLE 4 THKIDSClub		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 3日	～	令和7年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 3日	～	令和7年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士資格を所有する職員が主となりお子さま一人一人の発達段階に応じたサポートを行っています。専門知識を活かし、生活面・身体活動・リズム遊び・コミュニケーション、人間関係の形成等、5領域に特化した支援を行っています。	子ども達の取り組み姿勢を十分に認め、言葉や表情、仕草で伝えていきます。情緒の安定を図れるよう、安心できる環境づくり・保育士の専門性を活かし、子どもの気持ちに寄り添った支援を意識しています。	送迎時等の保護者の方とのコミュニケーション等を通して、子ども達の小さな変化にも気付いていけるよう、家庭との情報共有をより丁寧に行ってまいります。
2	訓練室では、呼吸や身体の発達の土台となる腹ばいやはいはいをはじめ、様々な感覚を十分に使いながら取り組むサーキット活動を毎日行っています。こうした活動を通して、自身の身体の使い方を知り、姿勢の安定やバランス感覚を養い、集中力を高めることに繋がっています。また、その中で「できた」という経験を積み重ねることで、自己肯定感を育むことにも繋がります。	お子さま一人一人の特性や興味のあることを把握し、職員間で共有を行い支援にあたっています。支援前後には、反省・振り返りを行い、子ども達のためにはどうするのが良いのか話し合う時間を大切にしています。	訓練室に子ども達の目標を貼り出すことで、子ども達はもちろん、職員も一人一人のニーズを認識・意識しながらの支援に取り組んでいけるようにします。
3	地域の公園に出掛けることで、地域の方々との交流の場や、マナーやルールを実践的に学べる機会を設けています。また、戸外活動では放デイさんとの合同活動も取り入れ、異年齢の関わりを大切にしながら、社会性やコミュニケーション能力を育てるようしています。	戸外に出る際には、一対一の支援を心がけ、子ども達が危険のないよう安心して伸び伸びと身体を動かせる環境づくりに努めています。事業所外でのルールを守ることの大切さや、危険察知能力を身に付けられるようになっています。また、子ども達が地域の方々から自然と挨拶ができるよう、職員が率先して地域の方に挨拶する姿を見せています。	遊具の使い方や順番等のルール、車の乗降時の際の注意点等、子ども達と一緒に考える機会を設けていきます。どこが危ないのか、どんなことをしてもらったらお友達は嬉しいのか等、具体的に伝えてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時間に余裕がなく毎日が慌ただしく過ぎてしまう。	午前の送迎終わりから、午後の送迎までの時間が短いので慌ただしい。同法人の事業所職員に送迎の手伝いをしてもらっている。	全ての業務において抜けやミスがなく、落ち着いた取り組みができるように、日々の業務確認や職員同士の声掛けを徹底していく。
2	特に午前利用の保護者の方と直接お話する機会が少ない。	園迎え、園送りの為お話する機会が少ない。送迎の順番によってもお話できない場合もある。	半年に一度のモニタリング以外にも、LINEや電話も活用し、コミュニケーションをとる機会を設けていきます。
3	一人一人の支援の対応力の差がある。	職員同士話す時間は設けているが、時間をかけて深くまで話す時間がとれていない。	一人一人が責任を持って支援に向かえるよう、役割分担を明確にしたり、日々のミーティングや研修を通して支援方針の統一を図り、さらに専門性を高めていけるようにしていきます。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ROSELLE 4TH KIDS CLUB		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 3日	～	令和7年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 3日	～	令和7年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員一人一人が子どもの特性を考慮したプログラムを考案し、毎日プログラム内容を変えることで、様々な経験を通して興味や得意・不得意の発見をすることができ、子ども一人一人に合った支援を提供することに繋がられている。	同じ活動でも、難易度や関わり方を個別に調節して参加しやすくしている。日々の活動を細かく観察し、小さな変化にも気付けるようにして、次の活動の考案の際にも生かしている。	デイリープログラムだけでなく、その他の時間にも以前取り組んだ活動、子ども達に人気のある活動等を取り入れ、何度も取り組めるようにしていきたい。
2	様々な活動の前には、子ども達が自分で考え、自分で行動することができる機会を設け、主体的に活動へ参加することができるようにしている。	すぐに声をかけるのではなく、子どもが自分で状況等を判断しようとする姿を見守り、必要な時にだけ最小限の支援を行うように意識している。	子ども達がたとえ失敗しても間違っても安心して活動ができる環境づくりを行い、挑戦する気持ちを育てていきたい。
3	地域の公園に出掛けることで、地域の方々との交流の場や、マナーやルールを実践的に学べる機会を設けています。また、戸外活動では未就学児との合同活動も取り入れ、異年齢の関わりを大切にしながら、社会性やコミュニケーション能力を育めるようにしています。	戸外に出る際には、子ども達が危険のないよう安心して伸び伸びと身体を動かせる環境づくりに努めています。事業所外でのルールを守ることの大切さや、危険察知能力を身に付けられるようにしています。また、子ども達が地域の方々に自然と挨拶ができるよう、職員が率先して地域の方に挨拶する姿を見せています。	遊具の使い方や順番等のルール、車の乗降時の際の注意点等、子ども達と一緒に考える機会を設けていきます。どこが危ないのか、どんなことをしてもらったらお友だちは嬉しいのか等、具体的に伝えていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時間に余裕がなく毎日が慌ただしく過ぎてしまう。	午前の送迎終わりから、午後の送迎までの時間が短いので慌ただしい。同法人の事業所職員に送迎の手伝いをしてもらっている。	全ての業務において抜けやミスがなく、落ち着いた取り組みができるように、日々の業務確認や職員同士の声掛けを徹底していく。
2	一人一人の支援の対応力の差がある。	職員同士話す時間は設けているが、時間をかけて深くまで話す時間がとれていない。	一人一人が責任を持って支援に向かえるよう、役割分担を明確にしたり、日々のミーティングや研修を通して支援方針の統一を図り、さらに専門性を高めていけるようになっていきます。
3	戸外活動時、移動に時間がかかり活動時間が短くなる。	事務所近辺に安全な公園が少ない。	6限授業の日には直接公園に集合して、なるべく戸外での活動時間が長くなるようになっていく。